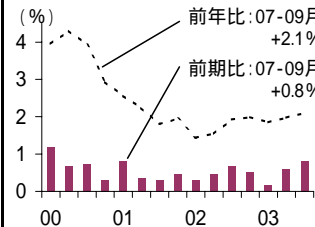


## 月例英国経済概況(2004年1月)

現状:消費は堅調な推移を続け、企業部門も増産の兆し。  
 7-9月期の実質GDPは、前期比0.8%(同年率3.3%)に上方修正(図)。  
 産業別の伸びでも、製造業が前期比プラスに改訂(0.1%、サービス業は同0.9%)。  
 7-9月期に民間投資の寄与度がマイナスに転じたが、主に特殊要因によるもの( )。  
 貿易赤字は、緩やかながら再拡大の兆候( )。ドル安の影響による対米輸出減の影響が顕現。  
 企業のマインドは改善を継続。生産も増加傾向に転じ始めた模様( )。  
 消費は好調を持続( )。良好な雇用・所得環境( )や住宅市場( )、低金利( )が背景に。  
 住宅ローンの増勢が増しているが、消費者ローンは減速気味( )。  
 今後:世界経済回復に伴う輸出増加で、景気拡大が継続の公算。  
 世界経済回復に伴う輸出増加が、企業部門の回復傾向を後押し。景気は緩やかな拡大を持続  
 との見方がコンセンサス( )。  
 ただし、大陸欧州の景気回復テンポが緩慢なため、当面の輸出増加ペースは限定的。  
 負債を累増させている家計の消費と住宅市場に対する、利上げの影響が注目される。  
 また、利上げ等を背景としたポンド高ドル安の輸出への影響にも要注意。

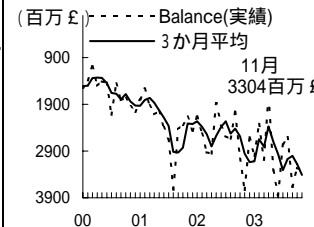
**成長率**  
 7-9月期は潜在成長率を上回る高い伸び。



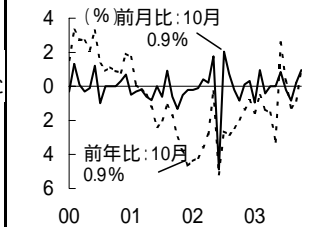
**成長率(内訳)**  
 消費堅調、外需不振。前向き在庫積み増しか。

	(前期比寄与度:%ポイント)	
	03/4-6	03/7-9
GDP	+0.6%	+0.8%
民間消費	+0.5%	+0.6%
民間投資	+0.3%	0.1%
政府支出	+0.0%	+0.1%
在庫投資	0.4%	+0.3%
純輸出	+0.0%	0.0%

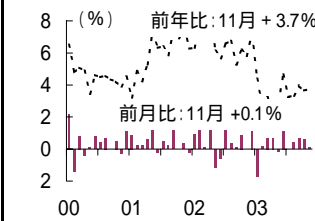
**純輸出(輸出-輸入)**  
 貿易赤字が再拡大傾向。米国向け輸出が減少。



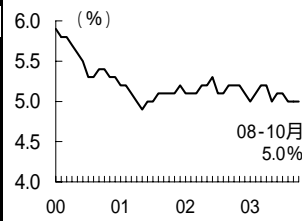
**鉱工業生産**  
 生産は2ヶ月連続で増加。製造業も約1年ぶりの高い伸び。



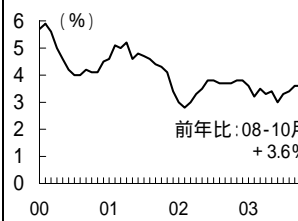
**消費(小売数量)**  
 堅調を持続。



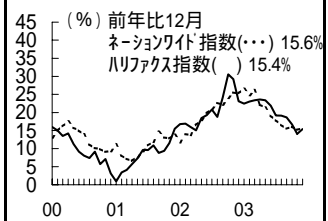
**失業率(ILOベース)**  
 いぜん歴史的な低水準で推移。若年層の失業率が低下。



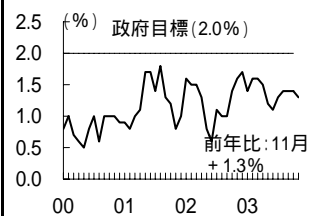
**賃金上昇率**  
 昨年後半以降、伸びが高まる傾向に。



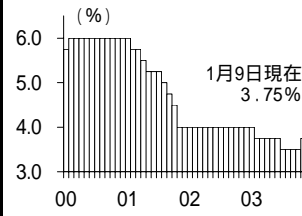
**住宅価格上昇率**  
 一時の過熱感は和らぐも、住宅市場は堅調を維持。



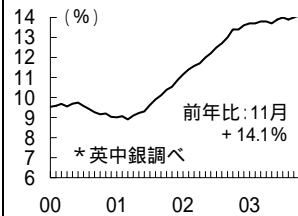
**インフレ率(CPI)**  
 前月から低下。EU内では、フィンランドに次ぐ低い伸び。



**政策金利(レポ・レート)**  
 03年11月6日に利上げ実施。



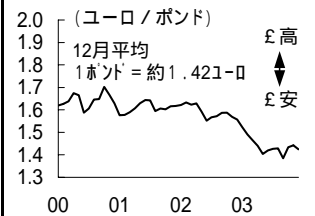
**個人向け貸出**  
 住宅ローンを中心に高水準を維持。



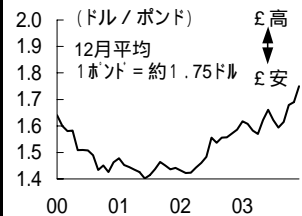
**成長率予測(2003-2004年)**  
 緩やかな景気拡大がコンセンサス。

2003年(2004年)	
民間平均	2.0%(2.6%) 12/03集計
OECD	1.9%(2.7%) 11/03公表
IMF	1.7%(2.4%) 9/03公表
欧州委	2.0%(2.8%) 10/03公表
政府	2.0% 12/03公表
(3.0-3.5%)	

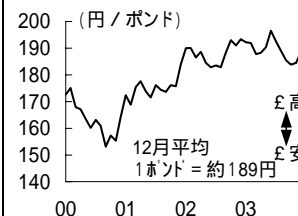
**ユーロ/ポンド相場**  
 12月以降、1.421-0近辺で横ばい推移。



**ドル/ポンド相場**  
 ドル安傾向継続。1月のポンドは11年ぶりの高水準で推移。



**円/ポンド相場**  
 じりじりとポンドが上伸。5ヶ月ぶりに190円台で推移。



**株価(FTSE100)**  
 景気好調を映じて年末に上昇。年初に7/02以来の4,500台を回復。

